

運用報告書

第8期（決算日 2011年12月20日）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限
運用方針	この投資信託は、主としてカナダの大手運用会社であるRBC Global Asset Management Inc.が運用する外国籍の投資証券を通じて、世界の資源関連企業の株式等へ投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
主要投資対象	① ルクセンブルク籍の外国投資法人「RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund」の投資証券（米ドル建て） ② 国内籍の証券投資信託「FC・マネー・マザーファンド」（マザーファンド）の受益証券（当該受益証券は、ファンド・オブ・ファンズのみを取得させることを目的とするものです。）
組入制限	マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	年2回（6月20日、12月20日。ただし休業日の場合は翌営業日）決算を行い、経費控除後の利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

■第8期分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金	0円
------------	----

グローバル資源エネルギーファンド

追加型投信／海外／株式

投資家の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
ご投資いただいております「グローバル資源エネルギーファンド」は、2011年12月20日に第8期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



ばんせい投信投資顧問

東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー3F

<お電話によるお問合わせ先>
電話番号 03-3523-8118
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。)
インターネットホームページ <http://www.bansei-am.co.jp/>

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			投資信託証券 組入比率	FC・マネー・ マザーファンド 組入比率	純 資 産 額 総
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率			
(設定日) (2007年12月21日)	円 10,000	円 —	% —	% —	% 3.3	百万円 3,026
第1期 (2008年6月20日)	9,838	0	△ 1.6	92.0	6.8	3,546
第2期 (2008年12月22日)	4,222	0	△57.1	98.1	1.2	1,074
第3期 (2009年6月22日)	6,371	0	50.9	90.9	4.8	1,459
第4期 (2009年12月21日)	6,598	0	3.6	94.8	5.0	1,011
第5期 (2010年6月21日)	6,992	0	6.0	97.3	1.2	845
第6期 (2010年12月20日)	8,449	0	20.8	96.6	1.2	812
第7期 (2011年6月20日)	7,886	0	△ 6.7	96.6	1.4	684
第8期 (2011年12月20日)	6,704	0	△15.0	95.2	2.0	509

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 各組入比率は、純資産総額に対する組入比率です。

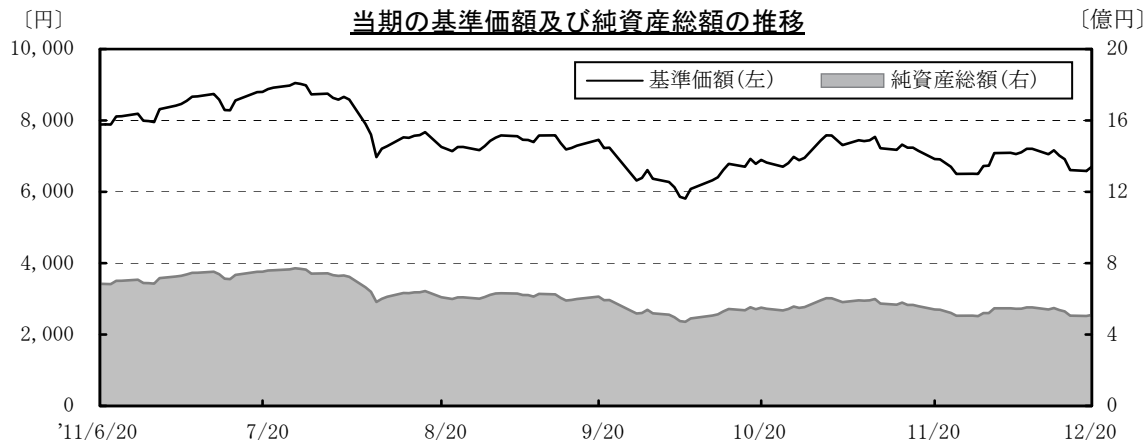
(注3) 複数の投資信託に分散投資をおこなうため、適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額		投資信託証券 組入比率	FC・マネー・ マザーファンド 組入比率
		騰 落 率		
(期 首) 2011年6月20日	円 7,886	% —	% 96.6	% 1.5
6月末	7,954	0.9	96.6	1.5
7月末	8,731	10.7	96.9	1.4
8月末	7,428	△ 5.8	95.3	1.6
9月末	6,368	△19.2	95.3	1.9
10月末	7,441	△ 5.6	95.8	1.7
11月末	6,724	△14.7	94.6	1.9
(期 末) 2011年12月20日	6,704	△15.0	95.2	2.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

■基準価額と純資産残高の推移（2011年6月20日から2011年12月20日まで）



■当期の運用経過（2011年6月21日から2011年12月20日まで）と今後の運用方針（ファンドの特色）

主としてカナダの大手運用会社であるRBC Global Asset Management Inc. が運用するルクセンブルク籍の「RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund」の外国籍外国投資法人発行の投資証券を通じて、世界の資源関連企業の株式等へ投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。

投資環境

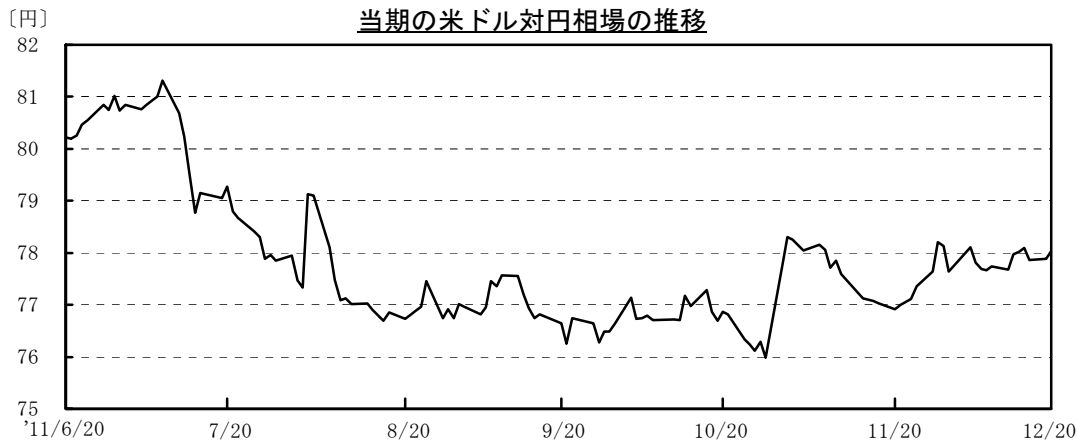
2011年、世界の株式市場は、多くの運用担当者が期待を持ってスタートしました。その期待はほとんどの資産クラスに満ちていたと思われま。また、その期待は新興国については成長への期待であり、先進国については景気回復への期待だったと思います。しかしながら、年央にはこの期待が恐怖にとって代わることになりました。欧州諸国における政府の債務危機そして銀行の信用不安、米国における景気減速、そして中国におけるハード・ランディングの可能性から生じた恐怖がとって代わることになったのです。今年の夏から始まった高い変動性に見舞われた期間において、いわゆる「質への逃避」というテーマが市場を席巻しました。この現象は、株式市場において、ディフェンシブ・セクターがアウト・パフォーマンスしたり、また小型株や新興国指数がアンダー・パフォーマンスしたりしたことなどをみても明らかでした。

「安全への逃避」といったテーマも、金価格については最も顕著なものとなりました。金は、当決算期間に上昇となった数少ない商品の一つとなっています。銅や亜鉛を含む、景気サイクルに直接リンクした商品は、貧弱なパフォーマンスとなりました。多くの投資家が待ち望んだ中国の成長加速が実現しなかったことが原因とみられています。原油価格は実質的に横ばいとなる一方で、天然ガス価格は、通常以外の掘削技術により算出された供給が増加する中で、下落する結果となりました。WT I 価格は年末に向けて高騰しました。Enbridge社が同社オクラホマ貯蔵所のクッシングに保管された余剰原油を軽減するために、新設したSeaway Pipelineの原油を（オクラホマからメキシコ湾岸へ）逆流させるという報道が背景になったとみられます。

基準価額の推移

基準価額の推移につきましては、期初、7,886円を起点に順調な滑り出しとなりました。しかし、エネルギー・資源関連株を最終的な投資対象とした当ファンドにあって、当決算期は、世界の債務危機、金融不安、リスク回避志向という大きなマネーの流れに逆らってパフォーマンスを伸ばすことが極めて難しい投資環境となりました。欧州債務問題に関しては、7月中旬に向けてEU諸国の首脳会議がギリシャに対し1,600億ユーロに上る追加救済策を協議する中、欧州債務危機も収束に向かうとの期待から、一旦は世界的に株式や商品相場も上げました。この間、基準価額も上昇トレンドに乗り、7月26日には9,048円と前期末から14.7%の上昇となりました。しかし、その後は欧州債務問題に加え米国においても連邦債務上限問題が浮上し、これら財政規律に対する財政均衡・緊縮予算強行論の高まりを背景に景気後退的観測が現実味を帯びるに至り、資産クラスでみれば、株式・商品売りの債券買い、特に安全資産として米国国債が強く物色される展開となりました。為替市場においても資源通貨・新興国通貨から、米ドル、日本円そしてスイス・フランといった安全通貨へマネーが大きく流入する結果となりました。基準価額でみますと、7月26日に期間高値9,048円を付けた後、米国デフォルト危機そして景気後退不安から8月10日には6,972円まで下落し、その後10月に入りギリシャのデフォルト観測再燃から6日には期間安値5,810円へ下落しました。しかしながら、その後11月に入りEU諸国の首脳が精力的にこの欧州債務危機に対し、EU、ECB、IMF、そして米国や日本の中央銀行なども巻き込みながら救済に向け動き出したため、危機収束に対する期待が膨らみました。基準価額も10月6日の5,810円から11月1日には一時7,583円まで戻しました。期末にかけ11月25日に一時、ドイツ国債の入札が不調に終わり、イタリアやフランスを含め他の債務国についても今後の資金調達に危機感が走る場面もありましたが、マーケットは概ね落ち着きを取り戻しました。その間の基準価額も、このような不安心理が支配する中で、上値で7,500円程度、そして下値で6,500円程度のレンジの中で推移しながら、結局は6,704円で当期を終了しました。

為替相場

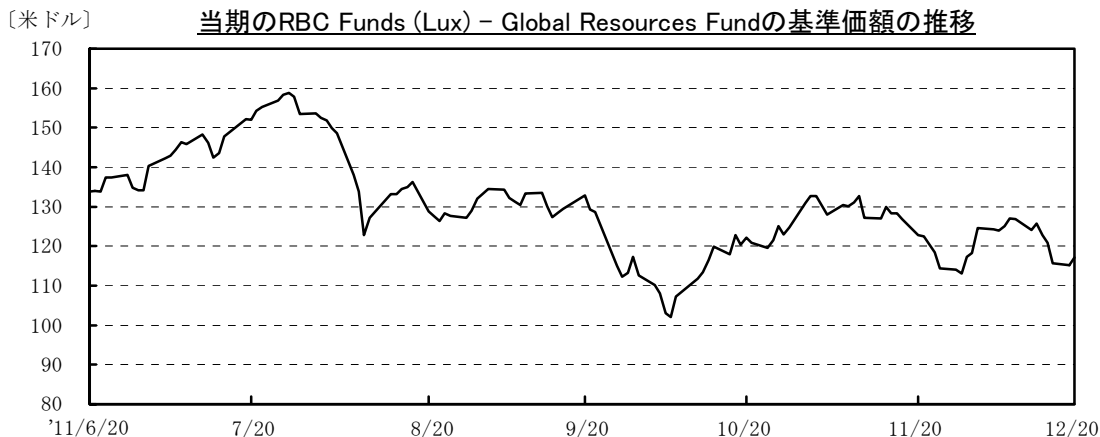


(注) 対顧客電信売買相場の仲値を表示しております。

当決算期の米ドル円レートは、期初80.22円、その後すぐ7月8日には期間安値81.31円を付けた後、大きく円高へ転換する結果となりました。基準価額の推移で触れましたが、主に欧米の債務危機が原因となって、マネーがいわゆる安全資産へ向かって流れました。日本円もリスク・フリー通貨とみられたことから、7月8日の81.31円から10月28日には75.98円と史上最高値を更新する事態となりました。政府・日銀は、過度の円高を抑制すべく、10月31日に、75.32円を超えて上伸した円に対し、対米ドルで大規模な円売り介入を実施しました。これにより、一旦は2円近く円安へ戻る場面もみられたものの、その程度は限定的なものとなりました。期末にかけ、欧州債務危機の再燃からユーロ売りの米ドル買いが起り、その延長線で日本円も若干円安気味で推移し、結局は78.03円まで当期を終了しました。

(ご参考) 主要投資対象ファンドの運用状況

RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund



当ファンドが投資するルクセンブルク籍の外国投資信託「RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund」の基準価額は、同決算期間-12.5%の下落となりました。時価総額（大型／中型／小型）分散の観点からみますと、ポートフォリオは、中小型グループに属する銘柄に比較的大きなウェイトをかけていましたが、全般的に大型株グループが小型株をアウト・パフォーマンスしたことから、ポートフォリオがアンダー・パフォーマンスする主因となりました。また、比較的パフォーマンスが芳しくなかった、エネルギーを除く資源、特にベースメタルにウェイトを掛けたことなども、結果に影響しました。プラス面では、当決算期についてもエネルギー部門でみられた企業による買収活動がポートフォリオを利する結果となりました。何故なら、ポートフォリオにPetrohawk Energy社やBrigham Exploration社などが含まれ、これらの銘柄を、北米国において非通常の掘削工法による原油やガス油田を持つ買収先を探していた大手企業が、プレミアムを支払って買収してくれたからです。鉱山部門では、Quadra FNX Mining社の保有も、12月初旬にポーランドのKGHM社が買収提案をしたことから株価が上昇してポートフォリオに対しプラスとなりました。

今後の投資環境に関しましては、特にエネルギー市場の需給トレンドが好調に推移するとみられます。先進国における石油需要は、2011年に、横ばいか2010年を下回る一方で、実際、需要の真の成長は引き続き途上国から来ると見込まれます。そして、この傾向は当面の間、継続するだろうとみています。ますます広がる非通常の掘削工法による原油・ガス田への関心こそが、当ファンドが何故石油サービス部門を比較的オーバー・ウェイトしているかという質問に対する答えとなります。RBC Global Asset Management Inc. の分析によれば、石油サービス部門の企業がこれまで以上に価格設定から稼働率改善を通して引き続き利益率を拡大するだろうとみています。エネルギーを除く資源部門では、中国、インド、そしてその他の海外商品多消費型経済が引き続き成長を遂げ、他方で供給量の抑制が伴うため、ベースメタルにとっては比較的建设的な市場環境になると思われま

分配

当期の収益分配金につきましては、基準価額の水準、市況動向等を勘案し、見送りとさせていただきます。

今後の運用方針

【グローバル資源エネルギーファンド】

今後も、高水準の組入れを念頭に、信託財産の概ね90%をRBC Funds (Lux) - Global Resources Fundに組入れ、FC・マネー・マザーファンドの組入れは10%以下とする方針です。

(ご参考) 投資対象先の今後の運用方針

【RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund】

資源価格は短期的には激しい変動が続くと予想されますが、当ファンドは中・長期的な見通しに立って運用を継続して参ります。中国・ブラジル・インドのように新興勢力の成長が続き、エネルギー製品やベースメタルの需給バランスに今後も不均衡が存在する限り、資源価格は実需に支えられ堅調に推移することが見込まれます。このような環境の中で、慎重に銘柄を選択しながら魅力あるポートフォリオを継続したいと考えます。

■ 1万口（元本10,000円）当りの費用明細

項 目	当 期
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 銀 行)	48円 (19) (27) (2)
(b) 保 管 費 用 等	12
合 計	60

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加、解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。なお、保管費用等は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率

(b) 保管費用等＝ $\frac{\text{期中の保管費用等}}{\text{期中の平均受益権口数}}$

(注2) 保管費用等には、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等（監査費用、法律顧問への報酬、印刷費用、郵送費用等）を含みます。

(注3) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■ 期中の売買および取引の状況（2011年6月21日から2011年12月20日まで）

(1) 投資信託証券

	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 米 国（ルクセンブルク籍）	口 —	千米ドル —	口 8,508.499	千米ドル 1,093

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 公社債

	買 付 額	売 付 額
国 内 国 債 証 券	千円 1,679,642	千円 1,679,648

(注1) 金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(注2) 単位未満は切捨て。

(3) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

当期における設定、解約はありません。

■ 利害関係人との取引状況（2011年6月21日から2011年12月20日まで）

当期における利害関係人との取引はありません。

■組入資産の明細（2011年12月20日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた外貨建ファンドの明細

	期首(前期末)	当 期 末				
		口 数	口 数	評 価 額		比 率
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(米国)	口	口	千米ドル	千円	%	
RBC Funds (Lux) Global Resources Fund	61,600.216	53,091.717	6,219	485,271	95.2	
合 計	口数、金額	61,600.216	53,091.717	6,219	485,271	—
	銘柄数、比率	1銘柄	1銘柄	—	—	95.2

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 比率は、純資産総額に対する組入比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
F C ・ マ ネ ー ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	千口 10,029	千口 10,029	千円 10,117

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成（2011年12月20日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 証 券	千円 485,271	% 93.6
F C ・ マ ネ ー ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	10,117	2.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	23,181	4.4
投 資 信 託 財 産 総 額	518,569	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、12月20日における邦貨換算レートは、1米ドル=78.03円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産（485,271千円）の投資信託財産総額（518,569千円）に対する比率は、93.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況 (2011年12月20日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	518,569,478円
コール・ローン等	23,180,611
投資信託証券(評価額)	485,271,402
FC・マネー・マザーファンド(評価額)	10,117,465
(B) 負 債	8,790,550
未 払 解 約 金	3,847,040
未 払 信 託 報 酬	3,980,546
そ の 他 未 払 費 用	962,964
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	509,778,928
元 本	760,456,230
次 期 繰 越 損 益 金	△250,677,302
(D) 受 益 権 総 口 数	760,456,230口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C / D)	6,704円

<注記事項>

当ファンドの期首元本額
 期中の追加設定元本額
 期中の一部解約元本額

867,900,881円
 12,878,683円
 120,323,334円

■損益の状況 (2011年6月21日から2011年12月20日まで)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	7,669円
受 取 利 息	7,669
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 84,438,383
売 買 益	7,619,207
売 買 損	△ 92,057,590
(C) 信 託 報 酬 等	△ 4,943,510
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 89,374,224
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△100,048,436
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 61,254,642
(配 当 等 相 当 額)	(71,813)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 61,326,455)
(G) 計 (D + E + F)	△250,677,302
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	△250,677,302
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 61,254,642
(配 当 等 相 当 額)	(71,813)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 61,326,455)
分 配 準 備 積 立 金	564,902
繰 越 損 益 金	△189,987,562

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<ご参考>

RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund

当ファンドの主要投資対象ファンドであるルクセンブルク籍の外国投資法人「RBC Funds (Lux) - Global Resources Fund」の状況をご報告申し上げます。

2011年12月20日時点で入手し得る直近の報告書であるUnaudited Semi Annual Reportより作成しております。

■組入資産の明細 (2011年4月30日現在)

銘柄	株数	評価額	比率
	株	米ドル	%
Energy			
Anglo Canadian Oil Corp	63,698	14,098	0.06
Arcan Resources Ltd	96,800	448,880	2.03
Baker Hughes Inc	6,000	464,460	2.10
Bellatrix Exploration Ltd	33,076	191,376	0.86
Bengal Energy Ltd	49,000	81,077	0.37
BNK Petroleum Inc	62,600	399,146	1.80
Brigham Exploration Co	12,800	429,184	1.94
Celtic Exploration Ltd	26,500	541,813	2.44
Coastal Energy Co	15,200	98,519	0.44
Connacher Oil & Gas Ltd	318,800	450,221	2.03
Halliburton Co	16,400	827,872	3.74
Helmerich & Payne Inc	6,400	424,576	1.92
National Oilwell Varco Inc	9,400	720,886	3.25
Nobel Corp	10,600	455,906	2.06
Occidental Petroleum Corp	6,600	754,314	3.40
Open Range Energy Corp	14,431	80,151	0.36
Petrohawk Energy Corp	16,600	448,366	2.02
Petrominerales Ltd	12,053	459,966	2.08
Strategic Oil & Gas Ltd	89,200	97,769	0.44
Suncor Energy Inc	24,500	1,126,042	5.08
TAG Oil Ltd	15,000	92,006	0.42
Tourmaline Oil Corp	13,252	377,371	1.70
Trican Well Service Ltd	27,800	683,244	3.08
Trilogy Energy Corp	33,316	800,202	3.61
Trinidad Drilling Ltd	39,900	455,832	2.06
Western Energy Services Corp	932,000	442,008	1.99
Western Refining Inc	11,900	201,824	0.91
Wild Stream Exploration Inc	43,800	533,161	2.41
Energy合計		12,100,270	54.60

銘柄	株数	評価額	比率
	株	米ドル	%
Materials			
Afferro Mining Inc	24,531	55,290	0.25
African Minerals Ltd	26,000	218,351	0.99
Aureus Mining Inc	24,531	38,768	0.18
Castle Resources	200,000	172,841	0.78
Champion Minerals Inc	84,427	166,389	0.75
Colossus Minerals Inc	51,500	465,690	2.10
Copper Mountain Mining Corp	58,400	446,224	2.01
Eldorado Gold Corp	24,600	456,559	2.06
EMED Mining Public Ltd	650,000	137,008	0.62
First Quantum Minerals Ltd	3,100	440,505	1.99
Goldcorp Inc	10,100	562,986	2.54
Intrepid Mines Ltd	223,200	451,645	2.04
INV Metals Inc	109,600	71,615	0.32
Lake Shore Gold Corp	103,200	441,579	1.99
Mawson West Ltd	48,114	101,415	0.46
Mirasol Resources Ltd	32,300	204,928	0.92
Mountain Province Diamonds Inc	32,000	197,966	0.89
New Gold Inc	39,600	443,640	2.00
North American Palladium Ltd	38,600	246,933	1.11
Northland Resources SA	43,695	137,691	0.62
Quadra FNX Mining Ltd	43,800	716,882	3.24
Silver Wheaton Corp	10,800	438,215	1.98
Teck Resources Ltd -B-	13,535	733,630	3.31
Materials合計		7,346,750	33.15
Total		19,447,020	87.75

■貸借対照表 (2011年4月30日現在)

	(単位：米ドル)
資産の部	
有価証券 (評価額)	19,447,020
預金	6,705,910
未収入金	97,813
未収利息及び未収配当金	811
その他資産	107,983
資産合計	26,359,537
負債の部	
当座借越	3,950,342
未払金	120,000
未払管理報酬	107,354
その他負債	20,803
負債合計	4,198,499
純資産合計	22,161,038

■損益及び剰余金計算書 (2010年11月1日から2011年4月30日まで)

	(単位：米ドル)
期首純資産総額	9,145,963
収益	
受取配当金	11,179
預金利息	29
収益合計	11,208
費用	
管理報酬	38,357
銀行利息	155
その他費用	5,114
費用合計	43,626
投資純利益又は純損失 (△)	△32,418
投資	1,777,461
外国為替	△89,950
当期実現純利益又は純損失 (△)	1,655,093
未実現評価益又は評価損 (△)	783,497
営業純利益又は純損失 (△)	2,438,590
投資証券資本の変動	
追加設定元本	12,241,484
一部解約元本 (△)	△1,664,999
期末純資産総額	22,161,038

FC・マネー・マザーファンド

運用報告書

第4期

(決算日 2011年12月20日)

(計算期間 2010年12月21日から2011年12月20日まで)

「FC・マネー・マザーファンド」は、2011年12月20日に第4期決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第4期の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	この投資信託は、主としてわが国の公社債への投資により、利息収入の確保を目指して運用を行います。
投 資 態 度	①わが国の公社債を中心に安定運用を行います。 ②邦貨建資産の組入れにあたっては、取得時に第二位(a-2格相当)以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。 ③当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記運用が行われなことがあります。 ④当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズのみを取得させることを目的とするものです。
投 資 制 限	外貨建資産への投資は行いません。
決 算 日	毎年12月20日。ただし休業日の場合は翌営業日。

■設定以来の運用実績

決算期	基準	価 額		公 社 債 率 組 入 比 率	純 資 産 額 総 額
		期 騰	落 中 率		
(設 定 日) (2007年12月21日)	円		%	%	百万円
	10,000		—	—	100
第1期 (2008年12月22日)	10,051		0.5	78.7	12
第2期 (2009年12月21日)	10,069		0.2	99.8	50
第3期 (2010年12月20日)	10,079		0.1	98.9	10
第4期 (2011年12月20日)	10,088		0.1	98.8	10

(注) 当ファンドの運用方針に適切なベンチマーク（参考指数）が存在しないため、上表には市況を併記してありません。

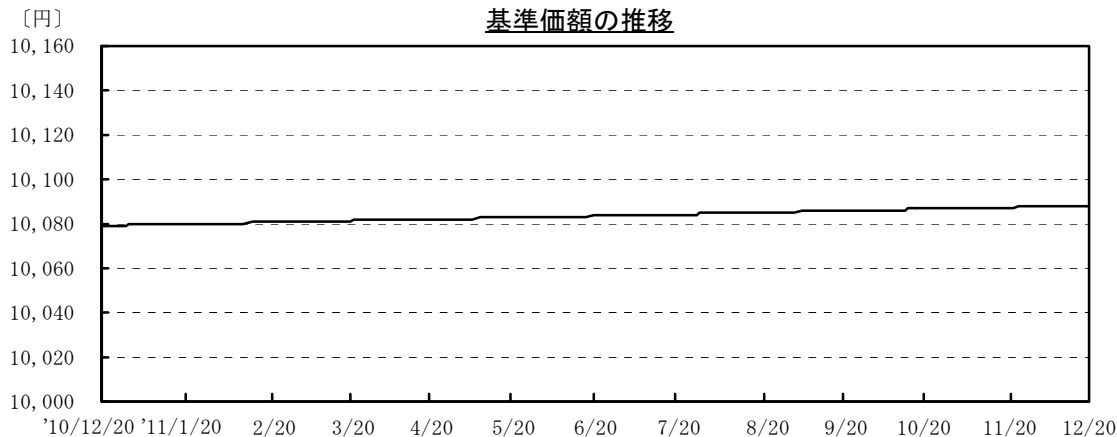
■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基準	価 額		公社債組入比率
		騰 落	率	
(期 首) 2010年12月20日	円		%	%
	10,079		—	98.9
12月末	10,080		0.0	98.9
2011年1月末	10,080		0.0	98.9
2月末	10,081		0.0	98.9
3月末	10,082		0.0	98.8
4月末	10,082		0.0	98.9
5月末	10,083		0.0	98.9
6月末	10,084		0.0	98.9
7月末	10,085		0.1	98.9
8月末	10,085		0.1	98.8
9月末	10,086		0.1	98.8
10月末	10,087		0.1	98.8
11月末	10,088		0.1	98.8
(期 末) 2011年12月20日	10,088		0.1	98.8

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 「公社債組入比率」は純資産総額に対する組入比率です。

■基準価額の推移（2010年12月20日から2011年12月20日まで）



■当期の運用経過（2010年12月21日から2011年12月20日まで）と今後の運用方針 （ファンドの特色）

当ファンドは、主としてわが国の公社債への投資により、利息収入の確保を目指して運用を行います。

基準価額の推移

当ファンドの基準価額は期首10,079円でスタートした後、組入れられた債券現先により収益を積み上げ、当期末の基準価額は10,088円となりました。

主な変動要因

当ファンドは、短期金融商品による運用収益を積み上げることにより、基準価額の上昇を目指しました。運用対象となる証券は、残存1年未満（経験的には、1ヵ月以内）としており、したがって金利変動は基準価額へほとんど影響を与えておりません。

市況要因

当運用期間がスタートした2010年12月は、日本の株式市場についても、米国連邦準備制度理事会（FRB）による超金融緩和政策を背景に米国株が高騰し、米ドル円レートについても80円から84円のレンジの中で安定的に推移していたことから、順調なスタートとなりました。その後、2011年の1月に入っても上げ相場が持続し、2月には米国景況感の改善と国内企業の10-12月期好決算から、一時、日経平均株価は、10,857円をつけ、投資家の間には過熱感も噂される展開となりました。しかしながら、3月11日、東日本大震災が発生し、その直後の大津波による被害、そして福島第一原発事故による放射能漏れが事態を一変させました。株式市場は、日経平均株価が3月9日から15日の間に18%余り下落し、米ドル円レートも3月10日の82.98円から3月17日の78.89円に円高となりました。5月はゴールデン・ウィークこそ震災後の高値トライが見られたものの、その流れも続かず、米国の景況感の悪化や海外商品相場下落、またギリシャを含む債務危機の再燃から調整が始まりました。7月

は、EU諸国首脳によるギリシャに対する1,600億ユーロに上る追加救済策を好感して、一旦は国内外の株式相場も大きく上昇となりましたが、8月の米国連邦債務上限引上げと米国債デフォルトリスク問題、そして緊縮財政による景気後退観測の台頭から、株式相場も大幅に下落する展開となりました。10月に入り、欧米の株式市場はEU諸国による銀行資本増強を含め欧州の債務危機打開に向けた協調が好感されて戻し始めたものの、日本株はタイの洪水被害による現地日本企業の生産停止や欧米の債務危機懸念が重しとなって、基調的には調整局面を脱しきることは出来ませんでした。その間、米国連邦準備制度理事会（FRB）は、引き続きFFレートのガイドランスを0%から0.25%のレンジに維持する徹底した超低金利政策を堅持する一方で、2010年のQE1に続き、2011年の6月にはQE2で大型の量的緩和を、また11月にはツイスト・オペレーションを通して中短期金利の低位安定化を強化しました。国内金融市場に関しては、日本国庫短期証券3ヵ月物を例に振り返りますと、当運用期間がスタートした2010年12月の年末並びに2011年3月決算期末を除けば、金利は0.09%から0.11%の極めて狭いレンジ内で推移する結果となりました。5月末から6月にかけて、米国で量的金融緩和第2弾（所謂『QE2』）が実施された局面では、同3ヵ月物金利も0.02%下落する場面もありましたが、概ね歴史的低水準で維持されたまま当期間を終了しました。当ファンドが、投資対象とした「翌日物債券現先」は「翌日物有担保コール・ローン」に比べ、レートが高めとなっていますが、その差は僅かなものとなりました。一方、日本国債10年物につきましても、2011年2月の1.355%をピークに低下トレンドを辿り、12月初めに一旦は上昇する兆しを見せたものの、結局は0.98%と、1.00%を下回る超低金利で当期間を終了する結果となりました。

運用の概況

この様な経済及び短期金融市場の下、主としてわが国の公社債を投資対象とする運用を行い、当面の解約ニーズに対応する金額を除き、高水準で推移するよう努めました。

当ファンドの運用に関しましては、前期と同様に、可能な限り債券現先に投資を行うことによって、利回りの向上に努めました。しかしながら、ファンドの純資産総額や債券現先組入比率は、国内株式投信の解約対応に大きく影響されました。期初から期末に到るまで額面組入金額は10百万円で推移し、当マネー・マザーファンドを100%とした場合の組入比率も同期間中はフルインベストに近い状態で推移させました。

今後の運用方針

当ファンドは、わが国の公社債を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として安定運用を行います。今後とも、経済、物価の状況を見極めながら金融政策や短期金利の動向に注意を払い、安定した収益確保を目指して投資していく方針です。

■ 1万口（元本10,000円）当りの費用明細

該当事項はございません。

■ 期中の売買および取引の状況（2010年12月21日から2011年12月20日まで）

公社債

		買付額	売付額
国内	国債証券	千円 2,449,490	千円 2,449,494

(注1) 金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注2) 単位未满是切捨て。

■ 組入資産の明細（2011年12月20日現在）

国内公社債

(A) 国内（邦貨建）公社債の種類別開示

区分	当 期 末						
	額面総額	評価額	組入比率	うちBB格 以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券 (現先取引)	千円 10,000 (10,000)	千円 9,999 (9,999)	% 98.8 (98.8)	% — (—)	% — (—)	% — (—)	% 98.8 (98.8)
合計	10,000 (10,000)	9,999 (9,999)	98.8 (98.8)	— (—)	— (—)	— (—)	98.8 (98.8)

(注1) ()内は非上場債で内書きです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未满是切捨て。

(注4) —印は組入れなし。

(注5) 評価については証券会社、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注6) 残存期間が1年以内の公社債は原則としてアキュムレーションまたはアモチゼーションにより評価しています。

(B) 国内（邦貨建）公社債の詳細開示（個別銘柄別）

種類	銘柄名	利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	239 国庫短期証券※	% 0.1005	千円 10,000	千円 9,999	2012/1/25
合計	—	—	10,000	9,999	—

(注1) 額面・評価額の単位未满是切捨て。

(注2) ※印は現先で保有している債券です。

■投資信託財産の構成（2011年12月20日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 9,999	% 98.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	118	1.2
投 資 信 託 財 産 総 額	10,117	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況（2011年12月20日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	10,117,648円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	118,648
公 社 債 (評価額)	9,999,000
(B) 負 債	0
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	10,117,648
元 本	10,029,208
次 期 繰 越 損 益 金	88,440
(D) 受 益 権 総 口 数	10,029,208口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C / D)	10,088円

<注記事項>

当マザーファンドの期首元本額	10,029,208円
期中の追加設定元本額	－円
期中の一部解約元本額	－円

■損益の状況（2010年12月21日から2011年12月20日まで）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	8,941円
受 取 利 息	8,941
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	0
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	8,941
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	79,499
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	0
(F) 解 約 差 損 益 金	0
(G) 計 (C + D + E + F)	88,440
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	88,440

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とは追加信託金と元本との差額をいい、元本を上回る額は利益として、下回る額は損失として処理されます。

(注3) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とは解約代金と元本の差額をいい、元本を上回る額は損失として、下回る額は利益として処理されます。



ばんせい投信投資顧問

Bansei